

## 退 官 の 辞

米 田 信 夫 (情報科学教室)

1976年11月から理学部教授会に仲間入りさせて頂いたが、1930年3月生れで今3月停年となる身である。これまで毎年3月の教授会で退官教授を送って来たが、今春は和田昭允学部長と共に送られる側に回る。教授会では、いつも学部長に近い席に座って時折文句をいうのを楽しみにして来たが、その席がなくなるのは寂しい気もする。

この間にはいろいろのことがあった。情報科学は初期には情報科学研究施設の延長として大型計算機センターの上の4階に部屋住みの時代を過ぎ、次に数学教室の5号館転出や教育用計算機センターの拡張移転に伴って理学部1号館 — その昔私が数学科で過した懐かしい場所である — に移り、10年余にしてやっと理学部7号館を造って頂いてそこに入った。ここも国際交流など教室規模拡大の気運からは安定した居所とはいえないかも知れ

ないが、これまでは内部施設の用途変更などでぎりぎりにしのいでいる。

理学部7号館については個人的にも若干の想い出がある。就任以来教授会でしばしば後藤英一教授が建屋をよこせと叫んでおられるのに共感して私自身も折にふれて歴代学部長に要求して来たが、文部省から数学出身の視学が来られた際について勇気を揮って直訴に及び、視学報告に情報科学に新建屋を与えるべしとの旨を含めて頂いた。このことがどの位に響いたかは知る限りでないが、その直後から話しが急進した。もっとも江戸時代の遺構調査ということで建設はしばらく足樹みしたが。

退官のご挨拶はもっといろいろ書こうと思っていたが、最近喘息で体調を崩しているのので、申し訳けなくこの位でお茶を濁させて頂く。